

クルアーンに見出される《創造》概念の特色  
——創造の反覆を中心として——

39 [1]

《序 言》	P. 1
(一) 一定の表現	P. 5
(二) AL-KHALQ (創造)	P. 14
(三) 因 律 と 靈 魂	P. 26

クルアーンに見出される《創造》概念の特色  
——創造の反覆を中心として——

39 [2]

(四) 一定の表現の《創造》に如き位置	P. 1
(五) 一定の表現の如き律の意味	P. 8
1. 返 覆	P. 10
2. 復 活	P. 13
3. 反 覆	P. 17
(六) アッラーに於き創造の反覆性	P. 19
1. khalaga と razaga	P. 20
2. 創造又在創造!	P. 29

このP-2に見出された《創造》概念の特色  
—— 創造の反響を中心として ——

39 [3]

(七) 人間の創造に於ける反響性 P. 1

1. 創造の原型 P. 4

2. 何故の反響か、—— <sup>反響の</sup>本質。—— P. 28

3. 何故の反響か、—— ~~何故の反響か~~ ——

~~P. 32~~  
P. 32

# 《 注意事項 》

◎ 3章95節に「 $\bar{r}-\bar{c}-4$ 」の形に「29」記述。

~~◎ 8章48節に「 $\bar{r}-\bar{c}-4$ 」の形に「29」記述。  
◎ 10章2節に「 $\bar{r}-\bar{c}-4$ 」の形に「29」記述。~~

◎ 14章9節、11節は「 $\bar{r}-\bar{c}-4$ 」。

◎ 9章70節は「 $\bar{r}-\bar{c}-4$ 」。(17)

◎ 10章2節は「 $\bar{r}-\bar{c}-4$ 」( عند ربيع )

~~◎ 424498 = 3848888 とあるが、5、8、~~

◎ 本来9/1問の「 $\bar{r}-\bar{c}-4$ 」は「 $\bar{r}-\bar{c}-4$ 」の形に「29」記述。  
◎ 本来9/1問の「 $\bar{r}-\bar{c}-4$ 」は「 $\bar{r}-\bar{c}-4$ 」の形に「29」記述。

~~◎ 4244 と 1298 の形に「 $\bar{r}-\bar{c}-4$ 」記述。~~

~~◎ لا يتبدل خلق الله~~

~~「 $\bar{r}-\bar{c}-4$ 」の形に「29」記述。~~

~~「 $\bar{r}-\bar{c}-4$ 」の形に「29」記述。  
意味「 $\bar{r}-\bar{c}-4$ 」。~~

○ 人間が非本来的な存在であることは無二である。

○ 人間は規定は不可なり。何故に規定されたいかは  
その人が論ずる。



ある創造物に現にプロトタイプが創造した  
あると... = 4. または 39 = 2 5... 39 創造物  
である。(kataly { 創造行為自体 }  
創造物)

換言すれば、創造行為自体は創造物として  
表現される。

○ 我々が世に最初に出た時、その時  
は我々がそこに帰るべきところ... 趣旨の  
節は最初の創造。つまり創造の原型に  
於ては プロトタイプ としてあるべきを示している。  
それまた、最初の審判は最初の創造と似  
ていることを示している。

産みと最初の審判の間の時間はないと  
みられるべきである。

→ 従って逆に、ある創造物は 現にプロトタイプ として  
創造した ものである。これは創造の  
反省である。

○ これは人間以外の創造物の反省に用いられる。

人間の存在の創造は 瞬間瞬間 の  
自己のうちに現れる。